

## 審査の結果の要旨

氏名 島田 昭仁

近年の日本においては、地域の社会的・経済的・空間的再生をめざした「まちづくり活動」が、全国に波及しつつある。そうした「まちづくり活動」においては、多くの場合、住民や関係者からなるまちづくり協議会などの討議ないしは協議を目的とした組織が立ち上げられ、まちづくりの方向や具体的な活動内容について、議論がおこなわれ、意思決定がなされている。こうしたまちづくり協議会などの活動は数年といった期間におよぶ場合も少なくない。一方で、まちづくり協議会での議論について、その公開性や透明性を確保する必要があることから、会議録を作成し保管する場合も多くなってきた。

こうした会議録を活用し、協議会などの場における専門家や各成員が果たした役割を検討すれば、まちづくり活動に対する専門的支援に必要なコミュニケーションの技法などが明らかになると考えられる。しかし、実際には、会議録が膨大になることから、有効に活用されることは殆どなかった。

本論文は、この点に着眼し、こうしたまちづくりの討議ないしは協議を行う組織の会議録を素材に、そのテキストデータを合理的に縮約する方法を新たに考案し、さらに会話分析のアプローチで会議内容を整理・分析・解釈する方法と組み合わせた「まちづくり小集団の討議過程の分析技法」を研究開発したものである。

論文は、8章から構成され、第1章が研究の目的、第2章が技法の開発経緯と内容の説明、第3章から5章までが技法を事例に当てはめたケーススタディ、第6章が手法をケーススタディに適用することで得られた知見の横断的整理、第7章が当該技法適用の評価、第8章が結論となっている。

当該技法の特徴・長所は、会議録を適切な形で縮約することにより、相対的に重要部分について詳細に分析することができ、まちづくり協議会における意向調整に際して、専門家やその他の成員が果たした役割を分析することが可能となった点にある。具体的には以下に述べるとおりである。

長期間にわたるまちづくり協議会の会議録のテキストデータを、成員間のコミュニケーションの相互行為について記述分析が可能なように、発話の相互行

為の構造を損なわずに縮約する。つまり、当該技法による縮約とは、意味を要約するものではなく、長期間の会議の中から、発話の割合の高い人物の発話に着目し、また重要なテーマとなり得るキーワードの利用状況を確認することで、いくつかの重要と考えられる相互行為の存在する会話群のみを抜き出すことでデータ量を縮約する方式となっている。

その上で、抽出した重要な会話群を対象に、賛成・反対の主体間の発話の相互関係を時経的に示した「コミュニケーション構造図」を作成する。これにより、どの主体が、どのタイミングで、意向調整や対立する意見の解消に役立つ目標イメージを提供している可能性があるのかが、明らかになる。そして該当部分に対して「談話分析」や「会話分析」を行うことにより、その内容についてより深く分析・解釈することができる。

このように最終的に「談話分析」や「会話分析」で分析することができるように、長期間にわたる会議録のテキストデータを他者に説明できる形で絞り込む(テキストマイニング)技法を提示している。

当該技法の有効性・妥当性については、第7章において、ケーススタディの結果を踏まえて評価している。その結果、縮約することによる重要なデータの欠落はなく、目的としたデータに着実に到着できていることが確認された。また、当該技法を適用することで、各ケースに共通して登場する特徴的なコミュニケーションの類型が整理・発見されるとともに、各ケースにおける専門家の果たした役割の違いなども明らかになっている(第6章)。

このように、研究開発された技法は、長期にわたるまちづくり小集団の会議録の分析をつうじて、討議における専門家や関連主体の役割を、より効率的かつ詳細に把握・分析・解釈することを可能とする独創的なものであり、まちづくりの実践手法の開発に対して有益なものである。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。